

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 19 日現在

機関番号：80101
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2014～2016
課題番号：26370974
研究課題名(和文) シュミット線とサハリン先住民の植物資源：環境の多様性から見た文化の地域的多様性

研究課題名(英文) Schmidt's Line and plant resources for indigenous people of Sakhalin: regional diversity of culture from the point of view of the diversity of natural environment

研究代表者
水島 未記 (MIZUSHIMA, MIKI)
北海道博物館・研究部・学芸員

研究者番号：70270585
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：サハリン北部およびハバロフスク地方で各2回の現地調査を行い、聞き取りおよび植物相・植生の把握を進めた。ベリー類の重要性など、サハリン・ニヴフの植物資源利用の特徴を整理した。サハリン・ニヴフの居住域であるシュミット線北側の植物相・植生は同緯度の他地域と比較して特殊であることを見いだした。それらを踏まえ、アムール川起源の砂が厚く堆積した層の存在が当該地域の貧弱な植物相・植生をもたらし、それがニヴフの植物資源利用文化の特徴に強い影響を及ぼしていることを示した。

研究成果の概要(英文)：We conducted fieldworks two times each in the Northern Sakhalin and the Khabarovsk region for interviews and investigation of the flora and vegetation. The characteristics of the Sakhalin Nivkh's utilization of plant resources such as the importance of berries were organized. The particularity of the flora and vegetation of the north side area of Schmidt's Line, where the Sakhalin Nivkh traditionally inhabited, compared with the other area in the similar latitude, was found. Based on the above, we demonstrated that the stratum of sand brought by the Amur River causes the poor flora and vegetation of this area and this strongly influences the characteristics of the Nivkh's utilization of plant resources.

研究分野：動植物と人との関わり、民族植物学、植物生態学

キーワード：ニヴフ サハリン アムール 植生 植物相 民族植物学 生態人類学 食文化

1. 研究開始当初の背景

北東アジアの先住民は漁労や狩猟が主な生業とされ、植物資源の利用については注目されてこなかった。地域により構成種が大きく変わる植物は、動物より強く自然環境と文化との相互作用に強く影響しているにもかかわらず、植物は種数の多さや識別の困難さから、種類の特定(同定)すらおぼつかない状況であった。

研究代表者は、科学研究費補助金(課題番号:20520724)による研究などにより、文化人類学や言語学の研究者と協働したフィールドワークを実施し、サハリンのニヴフ、ウイльтаを中心として、当該地域の先住民族の利用する植物「種」(生物学的な種とは必ずしも1対1で対応しない)を相当数報告し、多くを正しく同定した上でタクソンとの対応について明らかにしてきた。並行して動植物相・植生・地形・水文環境など自然環境についてもデータを蓄積してきた。

その中で、ベリー類の多用や小型ユリ科植物の重視など、ニヴフおよびウイльтаの植物資源利用文化についていくつかの特徴を指摘することができた。それらは近隣の民族である北海道アイヌのものとは異なり、伝統的な居住域であるサハリン北部の環境と符合していることが想定された。このような植物資源利用文化の地域的な差異はどのような要因によってもたらされているのかという点が、興味深い課題として残った。

一方、ニヴフの伝統的な居住域はアムール下流域とサハリンの2つの地域にまたがる。両地域では植生が異なることが事前の予備調査で示唆されていた。ニヴフはアムール方言とサハリン方言の2つのグループ間で文化的にも若干相違があるとされるが、植物資源利用文化にも差異があることが予想された。

いずれも、自然環境の違いが文化の違いにどのような影響を及ぼしているのかという点で、これまででない視点の研究となることが期待できた。

2. 研究の目的

以上の背景を踏まえ、本研究では、現地調査および文献調査によるデータを分析し、以下の2つを明らかにすることを目的とする。

(1) サハリン中央部には「シュミット線」と名付けられている植物分布の境界線がある。植物区系の上で、この線より南は日本と同じ東アジア区系に属するのに対し、北側は周極針葉樹林区系になり、南北で植物相が劇的に変わる。サハリン先住民のうち、樺太アイヌは伝統的な居住域がこの線より南側である一方、ニヴフおよびウイльтаはおおむね北側に限られるが、シュミット線の存在がそれぞれの植物資源利用文化にどのような影響を与えてき

たのかを検証する。

(2) アムール下流域とサハリン両地域のニヴフの植物資源文化の相違を明らかにした上で、そのことに植生など自然環境の相違がいかに影響を及ぼしているかを検証する。

3. 研究の方法

(1) 現地調査の概要

研究期間の1年目はハバロフスク地方、2年目はハバロフスク地方およびサハリン北部、3年目はサハリン北部および中部において現地調査を行った。

ハバロフスク地方については、アムール・ニヴフの伝統的な居住地域であるアムール川下流域に位置するニコラエフスク・ナ・アムール市および近郊の村、および現在多くのニヴフが住むハバロフスクの市内において、当地在住の話者数人より聞き取り調査を行った。また、ニコラエフスク市周辺の森林および湿原において、植物相・植生を調査した。

サハリンについては、北部でニヴフ人口が最も多いネクラソフカ村で、当地在住の話者数人より、野外での聞き取りを含む調査を実施した。また、同村の周辺の森林および湿原において、植物相・植生を調査した。3年目には、サハリン北部東海岸のピルトウン湾の砂州上で植物相・植生を調査することができた。加えて3年目には、初めてシュミット線のすぐ南に当たるアレクサンドロフスク・サハリンスキーを訪れ、短時間の植物相・植生に関する調査を行うことができた。

(2) 植物資源利用文化

これまでの蓄積が最も大きいニヴフの植物資源利用文化に関して、研究代表者等の過去の調査データを活用するとともに、現地で補強のための聞き取り調査を行ったほか、既存の文献(主にロシア語)による情報も加えることで、データの集積を進めた。

(3) 植物相および植生

当該地域の植物相および植生について、既存のロシア語文献、現地のロシア人研究者によるデータおよび研究代表者等のこれまでのデータを活用し、データの集積を進めた。加えて、ロシア側研究協力者の協力も得て、これまでのデータを補強する調査を行った。

(4) 分析・考察

これらのデータを整理・分析し、上記の目的にある、植物相・植生などの自然環境が植物資源利用文化に与える影響について考察した。

4. 研究成果

(1) 植物資源利用文化に関する調査

ハバロフスク地方における聞き取り調査で

は、研究代表者らも含めてこれまでほとんど調査されていなかったアムール・ニヴフの植物資源利用文化に関して多くの情報を得ることができた。しかしながら、研究期間に先立つ予備調査を含めても3回の滞在では、特徴を比較分析するだけの十分なデータとはならなかった。加えて、聞き取りを進める中で、アムール川下流域においては、ニヴフの伝統的な集落が現在の居住地からはかなり離れて分布しており、訪問して植生等を確認することが困難であることが明らかになった。そのため、まずは基礎的な情報として、ニヴフの伝統的な集落の位置について把握する必要があることがわかった。

サハリン北部における聞き取り調査では、過去の調査では訪れたことがなかった集落周辺の野外に話者とともに出かけ、ベリーを採取しながら聞き取りを行うことができた。湿原や山火事跡地等、特定のベリー類が特に高密度に分布し、採集に好適なポイントについて知っているということが重要であることなど、さまざまな新知見を得ることができた。

(2) 植物相および植生に関する調査

ニコラエフスク市周辺における植物相・植生調査では、短時間の滞在となったため予備的な調査に留まったが、特にサハリン北部との比較において、以下の点を確認できた。

- ・サハリン・ニヴフが現在でも頻繁に利用し、また、重要視している、ベリー類を豊富に採取できる湿原や砂丘などの環境が、アムール川河口～下流域には比較的少ないこと。
- ・そのようなベリー類を豊富に採取できる環境は、あったとしても少なくとも現在の居住地からは遠く、頻繁に採集に行くことはできないこと。
- ・アムール川河口～下流域は、サハリン北部と異なり広葉樹の樹種が豊富であること。
- ・広葉樹のうち食用となる果実をつける中高木は、サハリン北部ではエゾノウミズザクラ1種のみであるのに対し、アムール川河口～下流域では数種見られること。
- ・ミズゴケ湿原においては、サハリン北部との植物相の差異は少ないこと。

しかしながら短期間の調査で踏査できる範囲は限られ、アムール・ニヴフの伝統的な居住域に一般化するためには依然としてデータが不足している。

サハリン北部、ネクラソフカ村における植物相・植生調査では、伝統的な集落周辺に湿原が多いことを再確認した。また、ピルトゥン湾の砂州においては、短時間ではあるが大規模な砂州上の植物相・植生を調査することができた。

シュミット線のすぐ南に当たるアレクサンドロフスクにおける調査では、北部（シュミット線以北）とは植生・植物相とも大きく異

なり、南方系の植物種が見られることを確認した。

(3) 分析・考察

ベリー類の重要性など、サハリン・ニヴフの植物資源利用の特徴を体系立てて整理し、それがサハリン・ニヴフの伝統的な居住域であるシュミット線北側の植生・植物相とどのように関わっているかについて分析を行った。

その結果、シュミット線北側の植生・植物相が、同緯度の他地域と比較しても極めて特殊であるということが強く影響していると推測された。これはアムール川の運んできた砂が厚く堆積した層の影響によるものと考えられる。この砂の層の存在による土壌の発達の悪さが貧弱な植生・植物相をもたらし、それがサハリン・ニヴフの植物資源利用文化の特徴に影響を及ぼしていると結論づけられた。

以上の情報を整理し、気候・地理的環境、植物相、植生という自然環境の各要素が、植物資源利用文化の特徴にどう関連し、どのような形で影響を及ぼしているかを明らかにできた（水島ほか 2017）。

アムール下流域とサハリン両地域の相違に関しては、3年間の研究期間ではアムール川河口地域に関して分析に耐えるだけのデータが得られず、今後の課題として残った。

〈引用文献〉

水島未記・白石英才・丹菊逸治、サハリンの植物相および植生から見たニヴフの植物資源利用、北海道博物館研究紀要、第2号、2017、1-14

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 4件）

①水島未記・白石英才・丹菊逸治、サハリンの植物相および植生から見たニヴフの植物資源利用、北海道博物館研究紀要、査読無、第2号、2017、pp. 1-14

<http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/study/hm-bulletin/>

②白石英才・丹菊逸治、ニヴフ語アムール方言の基礎語彙3、北方言語研究、査読有、第5号、2015、pp. 215-226

<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/58361>

③Bert Botma & Hidetoshi Shiraishi、Nivk palatalisation: articulatory causes and perceptual effects、*Phonology*、査読有、Volume 31 Issue 2、2014、pp. 181-207

〔学会発表〕（計 11件）

①白石英才・丹菊逸治・水島未記、

Лингвистический и ботанический атлас Северо-Восточной Азии, Международной Научной Конференции «ИЗ ВЕКА В ВЕК...», 2016年9月13日、ユジノサハリンスク (ロシア共和国)

② Hidetoshi Shiraishi and Bert Botma, Writing Practices in Nivkh, Globalising Sociolinguistics, 2015年6月20日、ライデン (オランダ)

③ 水島未記・白石英才、ニヴフの植物資源利用文化と植物名称を調査する、札幌学院大学言語学談話会、2014年11月27日、札幌学院大学 (江別市)

〔図書〕 (計 4件)

① 白石英才・水島未記・オリガ コヴァン、札幌学院大学、ニヴフ語音声資料 13 (シュミット方言) オリガ・ボリソヴナ コヴァン、2016、104
<http://ext-web.edu.sgu.ac.jp/hidetos/HTML/SMNLtitleJapans.htm>

② 白石英才・ナデジュダ ベソノヴァ、札幌学院大学、ニヴフ語音声資料 12 (シュミット方言) ナデジュダ グリゴリエヴナ・ベソノヴァ、2015、90
<http://ext-web.edu.sgu.ac.jp/hidetos/HTML/SMNLtitleJapans.htm>

③ 白石英才・ナタリヤ ヴォルボン、札幌学院大学、ニヴフ語音声資料 11 ナタリヤ デミヤノヴナ・ヴォルボン、2014、86
<http://ext-web.edu.sgu.ac.jp/hidetos/HTML/SMNL11.html>

〔その他〕

アウトリーチ活動

① 水島未記、北海道博物館での講座「北海道・北東アジアの自然と暮らし」のうち「サハリン・アムール地域の自然と先住民の植物利用」、2016年2月13日、北海道博物館 (札幌市)

② 水島未記、ニコラエフスク・ナ・アムール市北方少数民族文化センターにおける当地在住のニヴフ (大人・子ども含む) を対象としたレクチャー「ニヴフの植物文化を調査する」、2015年9月9日、ニコラエフスク・ナ・アムール市 (ロシア共和国)

③ 白石英才、ニコラエフスク・ナ・アムール市北方少数民族文化センターにおける当地在住のニヴフ (大人・子ども含む) を対象としたレクチャー、2015年9月9日、ニコラエフスク・ナ・アムール市 (ロシア共和国)

④ 丹菊逸治、ニコラエフスク・ナ・アムール市北方少数民族文化センターにおける当地在住のニヴフ (大人・子ども含む) を対象としたレクチャー、2015年9月9日、ニコラエフスク・ナ・アムール市 (ロシア共和国)

⑤ 水島未記、「蝦夷和紙プロジェクト」でのレクチャー「白樺樹皮とその利用」、2015年8月2日、北海道博物館 (札幌市)

ホームページ

① 白石英才、ニヴフ語音声資料アーカイブ
<http://ext-web.edu.sgu.ac.jp/hidetos/indexjapans.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

水島 未記 (MIZUSHIMA MIKI)
北海道博物館・研究部・学芸員
研究者番号：70270585

(2) 研究分担者

丹菊 逸治 (TANGIKU ITSUJI)
北海道大学・アイヌ・先住民研究センター・准教授
研究者番号：80397009

白石 英才 (SHIRAISHI HIDETOSHI)
札幌学院大学・経済学部・教授
研究者番号：10405631

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

タチヤナ・ローン (Роон, Татьяна Петровна)
元・サハリン州郷土博物館
ユジノサハリンスク市 (ロシア共和国)

ゲンナジー・マチュシュコフ (Матюшков, Геннадий Васильевич)
サハリン州郷土博物館
ユジノサハリンスク市 (ロシア共和国)

マリーナ・オシポヴァ (Осипова, Марина Викторовна)
ハバロフスク地方郷土博物館
ハバロフスク市 (ロシア共和国)

マリーナ・テミナ (Тэмина, Марина Григорьевна)
ニコラエフスク教育大学
ニコラエフスク・ナ・アムール市 (ロシア共和国)